



田んぼの上空を美しく舞うトキ 写真提供／尾畠酒造(撮影:伊藤善行)

安全・安心な農産物の生産には、クリーンな水環境を作ることが大切だと伝えなければならない。水土里ネット秋田は、5月30日を「ゴミゼロの日」と定め、2010年から土地改良区の職員が主体となって、ため池、用水路、農道の清掃活動を始めた。

秋田県多面的機能支援協議会の活動組織との連携を図り、日本一綺麗な水で農産物をつくることを目標にした。中小学生に応募してもらう「ゴミ捨て防止の標語」には、次代を担う子どもたちが故郷に寄せる思いが表現されている。

「ゴミゼロで、きれいな水路と輝く未来」

子どもも大人も一緒に、地域の環境を保全しようという意識がさらに高まり、「ゴミゼロ運動の参加者が年々増えていくことを期待したいと思う。

トキと共生する里づくり 学校蔵プロジェクト

安全・安心な農産物の生産には、クリーンな水環境を作ることが大切だと伝えなければならない。水土里ネット秋田は、5月30日を「ゴミゼロの日」と定め、2010年から土地改良区の職員が主体となって、ため池、用水路、農道の清掃活動を始めた。

秋田県多面的機能支援協議会の活動組織との連携を図り、日本一綺麗な水で農産物をつくることを目標にした。小中学生に応募してもらう「ゴミ捨て防止の標語」には、次代を担う子どもたちが故郷に寄せる思いが表現されている。

「ゴミゼロで、きれいな水路と輝く未来」

子どもも大人も一緒に、地域の環境を保全しようという意識がさらに高まり、ゴミゼロ運動の参加者が年々増えていくことを期待したいと思う。

**トキと共生する里づくりと
学校蔵プロジェクト**

2年ほど前に訪れた新潟県佐渡市のトキの森公園には、自然に近い環境が整備された大型ゲージがあった。飛翔の瞬間が見たくて、しばらくゲージの前に立つていると、運よくトキが飛び立った。広げた羽の内側は少し黄色みのあるピンクで、その美しさに息をのんだ。絶滅の危機に直面していたトキの人工繁殖が成功して、減農薬・減化学肥料によるコメの栽培をし、トキ生きるために餌となる生物が豊富に生育していくなければならない。佐渡市では「朱鷺と暮らす郷づくり認証米」と呼ばれる独自の認証制度をもうけて、減農薬・減化学肥料によるコメの栽培をし、トキ

尾畠酒造(撮影:伊藤善行)

住民の心
・環境保全
・人ひとりの
「安全・安心」
協働
気概(3K)
共有
土里ネット
組み推進
画に基づき
理
市町村
連携
制 資料提供/水土里ネット秋田

県 民
公 告
実践計画総合評価
点検(毎年)
●着実に実践されて
いるか
●取り組みに広がりが
見られるか
●目標の達成状況
(効果)はどうか
年次度の取り組み
への反映
●取り組みの根拠
●取り組みの見直し
●目標の見直し

もり・くみこ

(作家、エッセイスト)

北海道生まれ。農林水産省 食料・農業・農村政策審議会 臨時委員を務める。「農業と食」、「食育」に関わる委員や講演など多方面で活躍。著書に『ハッカの薫る丘で』(中公文庫)、『おいしい記憶』(共著・中央公論新社)などがある。

佐渡市真野鶴の尾畠酒造では、酒造りにおいても自然との調和を図ることが大切と考え、原料となる酒米にこだわり、徹底した減農薬栽培を行っている農家と提携している。そしてあらたな試みとして、2014年から「学校蔵プロジェクト」を稼働した。

の餌となる生物が水田とその周囲に生息しやすい環境の整備を推進している。虫や小さな生きものが生息できるような、厳しい条件が決められた農法では、収量が下がるのではないか。当初農家の方々は不安に思つたそうだ。しかし、トキが暮らせるような農業をやつてみようとの声が農家から上がり、自主的に動き始めてくれたという。生物多様性のための環境は、人の手によつて守られて保全されているのだ。

農業・農村整備事業の役割や効果について学ぼう！

作家 森久美子の

水と土が育む豊かな大地

文／森久美子

農地農村を守る協働力

A large, traditional wooden waterwheel (irrigation wheel) is shown in a lush green landscape. The wheel is positioned in a river or stream, with its blades partially submerged. In the foreground, there are vibrant red flowers and green foliage. The background features rolling hills and mountains under a bright blue sky with scattered white clouds.

夏の三連水車(朝倉市) 写真提供／水土里ネット山田壠

は記録的豪雨に見舞
いた。幼稚園児
の氾濫・決壩、家屋
などのライフライン、
車にも甚大な被害が
流れ込んで通水でき
て動かなくなつて
しまつた。

「水車が回れば、
きっと地域の住民
も元気が出る」と
の思いで、管理す
る山田堰土地改良
区役職員や九州農
政局の人たちが復
旧作業を始めた。
土砂は水路の底か
ら70~80センチの

食品安全は、きれいな水から ふるさとを守る水土里ネット

豪雨被害からの復興を目指し、「回れ、三連水車」

高さまで堆積しているため、手作業で流木や土砂の撤去作業と水車のメンテナンスを行つた。水車を傷つけないように慎重に作業を進めたという。

通水ストップ期間が4週間ほどですんだのは、地域住民と関係機関の協働力の賜物だ。勢いよく回る三連水車を見に行くために、あらためて福岡県への旅を計画しようと思つている。